九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Changes in maternal consciousness after childbirth and related paternal and family support

宮中, 文子

https://doi.org/10.15017/458567

出版情報：九州芸術工科大学, 2003, 博士（芸術工学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：

第１章　研究目的

第１節　研究目的

女性は妊娠・出産を経て「母親への発達」の過程において，特に産褥期に，母親としての役割を一層獲得していく時期である（Rubin,1997）．この時期にマタニティブルー（Matarnity blues）を経験する母親が少なくないことが報告されている（池本ら,1986/87；我部山,1986）．マタニティブルーは，一過性の抑鬱傾向（Hamilton,1962；Yalom,1968；Pitt,1973）であり，産褥早期に起こる情動と認知の混乱と定義され，涙もろさ，抑鬱気分，不安，軽い知的能力の低下などの比較的軽い抑鬱症状を特徴とするものである．そして，産後精神障害と初期の症状が類似しているが精神的な障害ではないものの何らかの予防的な対処が必要と言われている（Pitt,1968；高橋,1983；岡崎,1986；岡野,1989）．その原因として内分泌環境の変化に伴う身体的要因の他，心理社会的要因との関係について検討する必要性が指摘されている．この点については，神経質性格や初産婦との関連などが報告されている（高橋ら,1986；池本ら,1986/87）ものの，その他の報告では必ずしも明確ではない（我部山,1986；岡野,1989）．

第１部で述べたように，本研究では「母親への発達」を促す援助を考える上で，これに影響する要因を明らかにすることを課題とした．そして，「母親への発達」とは，母親意識（母親がその子どもに対して抱く愛着を伴った特別の気持ちや，子育てにおいて生じる親の気持ち）が出産後において経時的に肯定的に変容することとして，第Ⅱ部では，その母親意識が高いことには，母親自身の非抑鬱が高いこと，自己価値観が高いこと，夫婦関係の親密度が高いこと，性別役割分業観が伝統的であること，また，その夫の父親意識が高いことおよび乳児との関わりが多いことと有意な関連が認められたことから，これらは母親意識の関連要因と考えた．第Ⅲ部では，母親意識には，出産後１か月，10 か月，18 か月の各期で抑鬱傾向，自己価値観，夫婦関係の親密度や父親の子育てや父親意識や支援行動などの在り方が強く関与していたことから，母親意識の肯定的変化においてもそれらの要因が影響すると考えられた．このように母親意識には抑鬱傾向が関与することが明らかであるが，出産後早期の産褥期における状況については明らかで

はない．著者らは，出産後数日の母親にマタニティブルーが発生しやすいことから，これは「発達危機」(Erikson,1959；Caplan,1961)であり，この発生は母親となる発達課題を達成することの困難性を体験している母親に現れやすいのではないかと考えている（宮中ら,1994)．すなわち，女性は母親になる過程において，心理社会的な発達危機に遭遇するといわれている．その危機とは，ライフサイクル上の発達課題に向かう時，障害に直面し，これまでの対処方法を用いても克服できず，混乱し動転している時期で，次の発達課題での変換点でもある（Caplan,1968;Aguilera と Messick,1974)．こうした女性の心理社会的側面の発達の視点からの先行研究として，母性意識に関する，平井（1981)，新道ら（1985)，大日向（1988）の報告があるが，マタニティブルーとの関連性については言及されていない．

そこで，第Ⅳ部では，心理社会的な側面から，妊娠期および産褥期の母性意識と，出産後の抑鬱傾向との関連性について検討した．

第２章　対象と調査方法

第１節　対象と調査方法

第１項　調査対象

研究目的，プライバシーの保護，研究協力は任意であることを十分説明した上で，承諾の得られた母親を対象者とした．その対象者は，1991 年４月～ 1992 年３月までに，京都府，大阪府，山口県の計５病院において出産した母親で，かつ，妊娠・分娩に異常がある者や精神疾患の既往がある者を除外した 270 名（有効回答率 100 %）である．除外した理由は，自己記入式質問紙調査により身体回復に悪影響の恐れがあることや，調査結果へのバイヤスが生じる可能性のためである．

その対象者の属性については，表Ⅳ-１に示した．母親の年齢は，20 歳代と 30 歳代が主流であり，その平均年齢は 28.6（標準偏差 3.9）歳であった．母親のうち，初産婦が約６割，家族構成のうち約８割以上が核家族，職業をもっている母親が約２割強，里帰り分娩者は約６割であった．また，夫の平均年齢は 31.3